

父親養育の質と子どものアタッチメントタイプの関連 (中間報告)

東京大学発達保育実践政策学センター 大久保 圭 介

Associations between paternal caregiving and infant attachment types

The University of Tokyo, The Center for Early Childhood Development,

Education, and Policy Research, OKUBO, Keisuke

要 約

本研究は、父親の育児の量と質と子どものアタッチメントタイプの関連を検討することを目的とする。父親の育児の量はアンケートとインタビューによって、育児の質はフリープレイの観察によって評定する。子どものアタッチメントタイプは、ストレンジ・シチュエーション法を実施し、その映像から評定する。その他、子どもの月齢、性別、就園、問題行動の指標、父親の就労、精神的健康などに関する変数に加えて、父子の心拍なども測定する。父子関係におけるアタッチメントや、父親育児は子どもの発達のアウトカムに対して、母親の影響を考慮しても、特有の関連を持つことが示唆されつつあるが、日本においては未だ検証されていない。本研究は、日本の父子関係についてのより確かな理解をもたらす萌芽的な研究になりうるだろう。

【キー・ワード】 アタッチメント, ストレンジシチュエーション法, 敏感性, 父親, 乳児

Abstract

The purpose of this study is to examine the association between the quantity and quality of paternal parenting and the attachment type of the infant. The quantity of paternal parenting is assessed by questionnaires and interviews, and the quality of parenting is assessed by observation of a free-play session. The attachment type of the infant is assessed by the Strange Situation Procedure. Other variables such as the infant's age, gender, preschool attendance, indices of problem behavior, father's employment, and mental health are measured, as well as the heart rate of the father and the infant. Attachment in the father-child relationship and paternal parenting have been shown to be uniquely related to child developmental outcomes, even after controlling for maternal influences, but this has not yet been examined in Japan. This study may be budding research that will lead to a more sophisticated understanding of father-child relationships in Japan.

【Key words】 attachment, strange situation procedure, sensitivity, father, infant

問題と目的

近年の父親は「新しい父親 (New Father)」と言われるように (Altenburger & Schoppe-Sullivan, 2020), 父親はお金や食料を調達するだけでなく, 子どもの世話も行う必要があることがスタンダードな価値観として浸透しつつある。2000 年以降は, 子どもの発達における父親の特異的な影響に関する知見が蓄積されてきており, ここ数年の発達心理学において, 父子関係は最も関心の高い分野の一つであると言える。父親の育児の量も質も, それぞれが子どもの発達のアウトカムに対して, 母親の影響を考慮した上でも, 固有の影響を持ちうることを示されつつある一方で (例えば,), 国内においては, 父親育児参加の「量」を向上させようとする機運は高まりつつあるものの, その質にまで焦点が当てられていないのが現状である。

本研究では, 子どものアタッチメントタイプを評定し, そのアタッチメントタイプと父親育児の量と質の関連を検討する。これまでの研究で, 子どものシグナルから, 感情や欲求を的確に読み取り, 迅速に反応することができることを指す敏感性は子どものアタッチメント安定性を最も強く予測する要因の一つとして考えられている (Verhage et al., 2016)。しかし, 父子関係では, アタッチメント安定性の分散に対する敏感性の説明率は, 母子関係よりも低いことが指摘されている (Bretherton, 2010)。その理由の一つに, 一般的に, 母親と比べて, 父親が子どもに関わるのは, 日常的なケア場面よりも遊び場面が多いということが挙げられる。すなわち, 父親の場合は, 遊び場面での関わり方が, 子どもの発達において重要である可能性がある。そのことを踏まえて, 本研究では, 敏感性に加えて, 遊び場面における父親の関わり方の質にも焦点を当て, それらと子どものアタッチメントタイプとの関連を検討することを目的とする。また, 基本的なデモグラフィック情報に加えて, その他関連する父親の要因として, 父親の育児に感じる喜び (pleasure in parenting) や精神的健康, 子どもの要因として, 問題行動に関する指標, 父子の心拍変動などを測定し, それらとの関連も検討する。

方法

参加者

首都圏に住む 1-1.5 歳の子どもをもつ父親を対象とする。本研究で使用予定の評定方法を用いた先行研究 (Laranjo et al., 2008; Whipple et al., 2010; StGeorge & Freeman, 2017) を参考に, 検定力分析を行ったところ, およそ 40-100 名のサンプルサイズが適当であることが分かった。Covid-19 の感染状況を踏まえながら, 可能な範囲で, まずは 40 組の父子の観察データを得ることを目指す。

実験手続き

実験は以下の手順で行う。まず, 前室にて実験についての説明と同意の確認を得た後, 実験室に移動し, ストレンジ・シチュエーション法 (以下, SSP とする) を実施する。SSP の手順は表 1 の通りである。SSP の終了後, 続けて父子にフリープレイを行ってもらふ。フリープレイの終了後は, 実験

者が入室し、アンケート、インタビューの順に実施し、実験は終了となる。合計で約1時間の予定である。一連の手続きを通して、ビデオカメラで記録する。

表1 SSPの実施手順

エピソード	時間	詳細
1	1分	実験者が親子を部屋に誘導する。部屋には親子のみ。
2	3分	親子のみ。子どもは落ち着いておもちゃで遊ぶ。親は必要以上のアシストはしない。
3	3分	親子とストレンジャー 最初の1分：ストレンジャーが入室する 次の1分：ストレンジャーは親と会話する 最後の1分：ストレンジャーは子どもと遊ぶ
4	3分*	ストレンジャーと子ども（1回目の分離） 親が部屋から出る
5	3分	親と子ども（1回目の再会） 親が部屋に戻り、ストレンジャーはすぐに部屋から出る
6	3分*	子どものみ（2回目の分離） 親が部屋から出て、子どもが一人で部屋に残る
7	3分*	ストレンジャーと子ども ストレンジャーが部屋に入り、子どもと一緒にいる 必要があれば相互作用をする
8	3分	親と子ども（2回目の再会） 親が部屋に戻り、ストレンジャーはすぐに部屋から出る

*がついているエピソードは子どもの様子に応じて短縮する。

調査内容

子どものアタッチメントタイプ SSPによって評定する。執筆者はSSPのトレーニングを受け、信頼性テストを受講している最中である。SSPの評定は、執筆者に加え、もう1名、評定の資格を得ている研究者との共同で行う。

父親の育児の質 フリープレイ場面の録画映像から、父親の関わり方の質を評定する。感性については、MBQS (Maternal behavior Q-sort; Pederson et al., 1999) を用いて、stimulation (程よく刺激的な関わり) については、Olsavsky et al. (2020) で使用されている指標を用いてコーディングする。

父親の育児量 McBride & Mills (1983) の Parental Responsibility Scale を参考に作成した項目について (例、子どもの服を買う、子どもの着替えをする)、父親の普段の育児参加量を5件法で尋ねる。また、インタビューで、最も近い平日と休日一日の過ごし方について、朝起きてから夜寝るまで、「子どもに関する時間」を尋ねる。

父親の育児についての喜び Fagot (1985) の Pleasure in Parenting Scale を参考に作成した項目について (例、子どもをお風呂に入れる、子どもを寝かしつける)、どれくらい楽しんでいるかを5件法で尋ねる。また、インタビューのなかでも「普段の生活で子どもの世話をするとき、どのような気持ちですか」、「子どもとの関わっていて、どんなときに楽しい、嬉しいと思いますか」などという質問への回答を求める。

子どもの問題行動 CBCL (Child Behavior Checklist; Achenbach & Rescorla, 2000) を用いる。本研究では、1 歳児を対象とするため、1 歳半から 5 歳までが対象と CBCL 1.5-5 を使用する。

父親の精神的健康 父親の精神的健康の測定には、GHQ-12 (Doi & Minowa, 2003) を使用する。

父子の心拍 SSP を含む、実験手続き中の心拍を測定するために、Bittium 社の Faros 180 (心電計) を用いる。心電計は SSP 開始前に装着し、実験終了時に脱着する。

デモグラフィック項目 その他、子どもの性別や月齢、就園の有無、出生体重、在胎週数、父親の年齢、学歴、就労形態、世帯収入についての情報を得る。

倫理的配慮

本研究は、参加者の同意を得た上で実施する。なお、本研究は著者の所属大学の倫理審査専門委員会に審査を申請済みであり、現在審査中である。

現在の進捗状況と今後の予定

実験室の整備が終わり、2023 年 1 月に 2 組のパイロットスタディを実施予定である。パイロットスタディを踏まえて実験手続きを修正したのち、2023 年 2 月から本実験を開始予定である。

引用文献

- Achenbach, T. M., & Rescorla, L. A. (2000). Manual for the ASEBA preschool forms & profiles: An integrated system of multi-informant assessment. Burlington, VT: University of Vermont, Research Center for Children, Youth, and Families.
- Altenburger, L. E., & Schoppe-Sullivan, S. J. (2020). New fathers' parenting quality: Personal, contextual, and child precursors. *Journal of Family Psychology, 34* (7), 857–866.
- Bretherton, I. (2010). Fathers in attachment theory and research: A review. *Early Child Development and Care, 180*(1-2), 9–23.
- Doi, Y., & Minowa, M. (2003). Factor structure of the 12-item General Health Questionnaire in the Japanese general adult population. *Psychiatry and Clinical Neurosciences, 57*(4), 379–383.
- Fagot. (1985). Development of a pleasure in parenting scale. *Infant and Child Development, 4* (2), 75-82.
- Laranjo, J., Bernier, A., & Meins, E. (2008). Associations between maternal mind-mindedness and infant attachment security: Investigating the mediating role of maternal sensitivity. *Infant Behavior & Development, 31* (4), 688–695.
- McBride, B. A., & Mills, G. A. (1993). Parental Responsibility Scale. *Early Childhood Research Quarterly, 8* (4), 457-477.
- Olsavsky, A. L., Berrigan, M. N., Schoppe-Sullivan, S. J., Brown, G. L., & Kamp Dush, C. M. (2020).

- Paternal stimulation and father-infant attachment. *Attachment & Human Development*, 22(1), 15–26.
- Pederson, D. R., Moran, G., & Bento, S. (1999). *Maternal behaviour Q-sort*. Psychology Publications.
- StGeorge, J., & Freeman, E. (2017). Measurement of father-child rough-and-tumble play and its relations to child behavior. *Infant Mental Health Journal*, 38(6), 709–725.
- Verhage, M. L., Schuengel, C., Madigan, S., Fearon, R. M. P., Oosterman, M., Cassibba, R., Bakermans-Kranenburg, M. J., & van IJzendoorn, M. H. (2016). Narrowing the transmission gap: A synthesis of three decades of research on intergenerational transmission of attachment. *Psychological Bulletin*, 142(4), 337–366.
- Whipple, N., Bernier, A., & Mageau, G. A. (2011). A dimensional approach to maternal attachment state of mind: Relations to maternal sensitivity and maternal autonomy support. *Developmental Psychology*, 47(2), 396–403.

